

言語情報活用WG

WGの活動方針

豊富な言語資源と高度な言語処理技術を利用した言語情報活用システム研究開発プロジェクトの提案
言語処理研究コミュニティの形成

体制

主査：中井敏久(沖電気)

メンバー：

富士通研究所、シャープ、TIS、リコー、日本原子力研究所、沖電気工業、NICT

活動状況(主なトピックス)

- (1) WG会合の開催 2003年度 4回 2004年度 5回
- (2) 継続的技術交流会の開催 7回
- (3) 新規共同研究テーマ発掘

今後の活動スケジュール

- (1) 各プロジェクトの成果見通しヒアリング
- (2) プロジェクト成果PR策の策定
- (3) 次期共同研究テーマ検討
- (4) 継続的技術交流会の開催

技術交流会

開催日	テーマ	発表機関
2003年11月 5日	ユーザインタフェースと自然言語処理の融合	TIS
	読解機構の分析について	シャープ
2004年 1月14日	大規模非定型文書からの情報抽出	沖電気工業
	機械学習を用いた機械翻訳用モダリティコーパスの修正	NICT
2004年 4月 6日	翻訳支援システム	富士通研究所
	IJCNLP-04および在北京日米各社研究所訪問報告	沖電気工業
2004年 7月14日	NICTオープンラボで利用可能な言語資源、言語処理技術の紹介	NICT
2004年10月13日	文書読解支援インタフェース	TIS
	対訳データからの翻訳知識の獲得	シャープ
	敬語の心理モデル	NICT
2005年 1月19日	情報獲得支援のための専門用語アノテーション	沖電気工業
	中日翻訳支援	富士通研究所
	コーパスに基づいたシソーラス構築	NICT
2005年 3月30日	機械翻訳可能性の自動評価	NICT